

事務事業評価表 平成24年度

政策 豊かさ創造性を育む生涯学習環境の充実
 施策 子どもの可能性を伸ばす教育の充実
 基本事業 教育内容の充実

事業名 **小中学校学習サポート事業**

[0864]

| | | | | | |
|----|---------------|--------|--------|----------|------|
| 部名 | 教育部 | 事業開始年度 | 平成21年度 | 実施計画事業認定 | 非対象 |
| 課名 | 学校教育支援室 学校教育課 | 事業終了年度 | - 年度 | 会計区分 | 一般会計 |

| 事務事業の目的と成果 | |
|--|---|
| <p>対象</p> <p>(誰、何に対して事業を行うのか) 市内小中学校児童生徒</p> | <p>手段</p> <p>(事務事業の内容、やり方、手段) 市内小中学校にボランティア講師を派遣し、担当の教師と共に、チーム・ティーチングによる学習指導を行う</p> |
| <p>意図</p> <p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか) 児童にとって分かりやすい授業を行うことで、児童の勉学意欲が向上し確かな学力の定着を図る。</p> | |

| 事業量・コスト指標の推移 | | | | | | |
|-----------------------|-------------|-----------|--------------|--------------|--------------|---------------|
| 区分 | | 単位 | 21年度実績 | 22年度実績 | 23年度実績 | 24年度当初 |
| 対象指標1 | 小中学校児童生徒数 | 人 | 10,674 | 10,305 | 10,042 | 9,776 |
| 対象指標2 | | | | | | |
| 活動指標1 | ボランティアの登録人数 | 人 | 25 | 36 | 38 | 38 |
| 活動指標2 | | | | | | |
| 成果指標1 | 年間派遣人数 | 人 | 16 | 29 | 38 | 38 |
| 成果指標2 | | | | | | |
| 単位コスト指標 | | | | | | |
| 事業費計 (A) | | 千円 | 2,049 | 3,681 | 6,036 | 8,202 |
| 正職員人件費 (B) | | 千円 | 1,660 | 2,015 | 2,408 | 2,428 |
| | | | | | | |
| 総事業費 (A) + (B) | | 千円 | 3,709 | 5,696 | 8,444 | 10,630 |

| 費用内訳 | |
|------|---------------------------------------|
| 23年度 | 報酬 1,699千円、報償費 4,327千円、旅費 6千円、需用費 3千円 |

事業を取り巻く環境変化

| | | | |
|--------|---|-------------|--|
| 事業開始背景 | 平成19、20年度の全国学力学習状況調査において、北海道が下から2番目という調査結果を受け、全道をあげて学力向上を目指しているところであるが、江別市においても、平成20年度江別市学校改善支援プランを作成し、その中で、江別市が学校に対する支援の一環として、児童・生徒の学力向上のためのボランティア等による授業サポート事業の実施を掲げた。 | 事業を取り巻く環境変化 | |
|--------|---|-------------|--|

23年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的(対象と意図)ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

- 義務的事務事業
- 妥当である
- 妥当性が低い

理由・
根拠は？

児童・生徒の学力向上につながる。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

- 貢献度大きい
- 貢献度ふつう
- 貢献度小さい
- 基礎的事務事業

理由・
根拠は？

確かな学力の定着が求められており、授業中に一人ひとりの理解度に応じて指導することで、児童の学力向上につながる。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由、でていない理由は何ですか？

- あがっている
- どちらかといえばあがっている
- あがらない

理由・
根拠は？

ティームティーチングによる学習支援ができることで、目が行き届く指導ができるようになった。

(4)成果が向上する余地(可能性)は、ありますか？その理由は何ですか？

- 成果向上余地 大
- 成果向上余地 中
- 成果向上余地 小・なし

理由・
根拠は？

ボランティア講師の登録者が増え、学校からの派遣希望の条件と合致すれば事業の拡大が見込める。

(5)現状の成果を落とさずにコスト(予算+所要時間)を削減する新たな方法はありませんか？(受益者負担含む)

- ある
- ない

理由・
根拠は？

学校からの派遣希望が多い状況で、ボランティア講師の派遣日数を減らすことは難しい。